

## 平成21年度 学生議会 会議録

### (衣笠 鳥取県議会事務局長)

ただ今から、平成21年度学生議会を開会させていただきます。まず最初に小谷茂鳥取県議会議長がご挨拶を申し上げます。

### (小谷 鳥取県議会議長)

皆さん、こんにちは。本日は平成21年度の学生議会の開催にあたり、お礼とご挨拶を申し上げます。

まずはじめに、参加頂いた高校生、そして高等専門学校の学生さん、そして大学生の皆さん、そして学生をサポートしていただきました学校関係者の方々、そして平井知事をはじめ執行部の皆さん、皆さんの協力の元に開催できたことを心から感謝を申し上げます。ありがとうございます。

一昨年は夏休み高校生議会、昨年は鳥取県の次世代を担う学生議会を開催し、県内に暮らす若者の率直な意見を伺ったところでもあります。政治に無関心な若者が多くとよく世間では耳にする昨今ではございますけれど、一昨年、昨年の参加者のご意見を聞いているとよく勉強され、またしっかりと自分自身の考えを持っておられ、意識の高さに非常に驚いているところでございます。

今年の学生議会には大学生を主体に10名の方々に参加して頂いて、県政についての疑問、あるいは質問をして頂くところでございます。平井知事をはじめ、県の部局長の皆様の答弁を頂くこととし、今回皆さんからの質問の中には、非常に県政への提言等多く含まれていると伺っているところであります。鳥取県議会としても学生の皆様の抱えている悩み、あるいは率直な疑問、意見などを今後の県政に活かしていきたいと思っているところであります。また執行部の皆さんには、学生の質問や提案が今後県政に反映され、具体的な施策となって取り組まれることをお願いしたいと思っております。

終わりに、この学生議会を契機に学校や家庭、そして友達、多くの皆様に県政への関心を深めて頂き、将来の立派な議員が育っていかれますことを、そうすれば大変鳥取県にとっても有意義なことだろうと思っております。本日の学生議会が参加の皆さんにとって思い出、あるいは実りあるものとなりますことを祈念致しまして挨拶と致します。

### (衣笠 鳥取県議会事務局長)

ありがとうございました。本日の学生議会の議長役を、鳥取短期大学の中島祥吾さんをお願いしております。それでは中島祥吾さん、宜しくお願い致します。

### (鳥取短期大学 中島祥吾(以下:中島議長))

ただ今、学生議会の議長に指名されました鳥取短期大学の中島祥吾です。今日はスムーズな進行に努めますので、皆さんご協力をお願いします。

それではただ今から、平成21年度学生議会を開会します。本日の日程は県政に対する一般質問です。これから一般質問を行って頂きます。鳥取西高等学校、田中大輔さん、お願いします。

### (鳥取西高等学校 田中大輔)

鳥取県立鳥取西高等学校、田中大輔です。鳥取県教育委員会が掲げる教育ビジョンには、「目指す人間像」に「ふるさとへの誇りを持ち、創造力を高めながら21世紀を築いてゆく人」というものがあり、県教委の使命・ミッションには「自立した 心豊かな 人づくり ～郷土を愛し 自ら学ぶ 知・徳・体のバランスのとれた人づくり～」というものが策定されています。これらのことから県では地元を愛し活躍するような人づくりを目指した政策が進められているのだと思います。しかし多くの高校生は、進学を希望する中で県外の大学へと進んでいきます。そのような中では県外に住む鳥取の人間が地元へとUターンすることが重要になるのではないのでしょうか。

そこで、県外の大学などへ進学する人が大学卒業後に鳥取へのUターンをどれくらい希望してい

るのかを、県では把握しておられるのでしょうか。また、地元から県外に出ていった人が、後に地元へのUターンを希望した際、今の鳥取にはどれだけその希望を受け入れることができるのでしょうか。また、そのような体制が十分に備わっているのでしょうか。

僕自身も県外の大学に進学し、将来には鳥取で職に就きたいと思っています。そのような戻りたい人が思うように戻って来られる環境が整っているのか、またこれからどのように環境を整備していくのかをお尋ねします。

#### (中島議長)

田中さんが行いました一般質問に対して、平井知事、答弁をお願いします。

#### (平井知事)

皆さん、こんにちは。鳥取西高校、田中大輔さんの行われました一般質問にお答えを申し上げます。

本日こうして、10人の議員の皆様を鳥取県議会の本会議場にお迎えをすることができました。これにつきましては小谷県議会議長、斉木副議長をはじめ、県議会の議員の皆様の熱意の賜物でありまして、私ども鳥取県の執行部側としましてもおおいに協力をさせて頂きたいと考えております。

思いますに、皆さんも是非この機会を大切にしてもらいたいと思うのですが、民主主義というのは、民主政治というのは自分たちの実践がないと成り立たない仕組みなのです。全ての人が行政や政治に無関心だったとします。日本の人というのは意外とそういう傾向が強くて、外国と比べてお上に任しておけばいい、これは町役場やあるいは県庁や、あるいは政府のほうがやっていることだからワシは知らんという感じの対応、無関心が多いのです。これは何か1つの格好いいスタイルのように若い人たちは思うかも知れませんが、実は教育を受けるための大学への補助金だとか、あるいは高校の授業の運営だとか、全てが行政や政治に関係をしているのです。皆さんが社会に出られた後の福祉サービスを受けるためにも、あるいは就職をするためにも、みんな実は政治だとか行政だとかそういうものが絡み合っているのです。無関心の人が100人中100人になりますと勝手に動きだしてしまいます。私たちの国民の感覚がずれてくることになるのです。ですから、自分で積極的に政治の中で発言をしていくこと、これを怯まずに勇気を持ってやっていくこと、これが若い方がたにも求められているのです。だいたい選挙になりまして投票率を見ますと若い人たちがほど投票率が低かったりします。不思議なことです。本当は若い人たちがほど社会に求めるものがいっぱいあるのですけれども、逆に無関心が多いというのは残念なことだと思います。ですから今日はその1つの実践の機会として大いにここで語り合いたいと思います。党議制の民主主義がどういうものか、そのことのエスプリを皆さんに感じて帰って頂ければいいと思いますし、今度はこういう模擬議会ではなくて、実際のいろんな市民活動とかあるいは政治参画の場に挑戦をして欲しいと思います。そうすることで初めて世の中は動き出すと思うのです。ドイツの文豪のゲーテはこういうふうに言っています。私にこの地方のことを聞けというのか、それなら自分で屋根の上に登って自分で見なさいと、こういうふうに言っているのです。やはり自ら動くこと、これを体験して頂き実践をするきっかけになって欲しいと思います。

さて、田中さんの具体のご質問でありますけれども、まずU、I、Jターンを希望しているような、そういう帰りたい学生の数を知っていますかという話です。これはなかなかそういう、例えば田中さんが東京や大阪に行かれてその人たちとずっと連絡を取るわけにもいきませんので、統計的に取るのは難しいことであります。ただ、こういうものがあることを是非皆さんにも知って頂きたいと思いますが、鳥取県では人材登録バンク制度をスタートさせているのです。携帯電話にメールで、鳥取県にはこんな仕事がありますよ、そういう魅力を伝えてくれる、あるいは就職相談会、こんなことを今、企画していますよと、いうこういうメールシステムがあります。さらにそのメールシステムから次のステップに入りまして、登録を更にもう1歩進めて頂きますと求職の登録、求職というのは学校給食ではありませんで職業を求める登録ですね。私は仕事をしたいのです、鳥取で

仕事をしたいのですという意思表示もできるようになっています。これに登録をして頂きますとその会社さんのほうからこういう人が欲しいということで問い合わせがありますと、該当する人にメールを流してこんな機会がありますよと。こんな面接に参加しませんかという、そういう仕掛けをやっています。このような人材バンクシステムを現在発足させていまして、この求職者ですね、仕事を求めている人、県外の人の登録者の数が今ざっと見て693人おられます。そのぐらい、少なくともUターンして鳥取に帰って来たいという需要があるのかなというような推測をしています。本当はもっと多いと思うのですね。

それで、田中さんのお尋ねでありますけれども、そうやって帰って来たい人たちを受け皿として、我がふるさと鳥取県はきちんと受け入れてくれるのですかというお話です。私はそういう鳥取県にならなければいけないと思っています。現在いろんな試みをしています。例えば今、確かに会社のほう就職は厳しいのですね。そういう中で農林水産業を生業としてみたいという人たちも結構増えてきました。また、ふるさと住まいをしてみたいという人も増えてきました。特に農林水産業のほうでいえば研修制度を作りまして、研修でうまくマッチングができました。その後、実際に農林水産業をやってみませんかというシステムを走らせるようになりました。これを致しましたらこの春からですね、今までの間に既に300件ぐらい実際にそうした研修制度の中に入って来る人が出てきているのです。こんな仕組みを実は全国に先がけて作りました。普通の会社に就職したいという方もいっぱいおられます。そういうところで今、有効求人倍率が0.46ということではありますけれども、ただ是非ご認識を頂きたいのはいっぱい魅力ある企業ってあるのですよね。今日も今からそういう話し合いをしに行くのですけれども、あるメーカーさん、これは携帯電話の中に水晶の発信芯、その部品を作っている会社さんですけども、需要がいっぱいあるのでもっと人を雇いたいと。じゃあ県も応援しますので協定を結びましょうというのを今からやるのです。こういうことが実はいくつもあるのですね。更に魅力のある企業さんとして世界中の技術のたぶんトップを行っているようなセンサーの会社とか、あるいは製紙会社だとか、また電気の会社とか、例えば本当に美味しいご飯が炊けるような高級炊飯器を作っている会社とか、そういうのがたくさんあります。こういうような産業をもっともっと活発にしたいと考えています。

今、鳥取県は1つの歴史的な転換期に入っていると思うのです。それは鳩山総理が東アジア共同体ということを言い始めまして、もっと韓国とか中国だとか日本だとか東アジアで仲良くして世界をリードしていきましょうという構想です。そういう時代になったときに鳥取県はそういう中国とか韓国にもものすごく近いですから地の利があるわけですね。これを活かして例えば船の航路を開くとかいうような努力を今、地元ではやり始めました。それで実現してきています。更にそういうものを活用して企業が張り付いてくれないかなという期待を込めてやっています。もっと言えば、もうすぐ鳥取自動車道が大阪方面に開通をします。これができれば人の流れができてくる。物も動きやすくなる。そうするとこちらの方に企業活動が盛んにならないだろうか、そんなことも夢見て応援をしているわけですね。

鳥取県は農林水産業の産地でもございますので、農商工連携というのですが、工場だとか食品加工業、さらには機能的食品というような健康食品。例えばNグルコサミンとかですね、そういう物質を取り出しましてお肌が綺麗になる。あるいは健康が良くなりますよという、そういう商品売って急成長をしているようなところもあるのですね。こういう企業さんがいっぱいあります。ですから皆さんも地元の企業に是非関心を持って欲しいと思います。そして出来れば田中さんもさっきおっしゃいましたけれども、都会で一生懸命これから勉強する、そうやって自分を磨き上げた上で鳥取に帰って来て、今日こうして県議会に集ったその志をもう1度燃やして頂きまして、それで鳥取県の地域づくりに関わって頂ければ本当に嬉しいと思います。そういう若い人達を鳥取県は是非応援していきたいと思っておりますので、宜しくお願いをします。どうもありがとうございました。

**(中島議長)**

続きまして、鳥取敬愛高等学校、加藤薫子さん、お願いします。

**(鳥取敬愛高等学校 加藤薫子)**

はい。鳥取敬愛高等学校1年、加藤薫子と申します。本日は宜しくお願い致します。私は今回、このような学生議会を開き、若い世代の意見を積極的に聞こうとして下さる鳥取県の姿勢をととても嬉しく思いました。ありがとうございます。

さて、私は「住みやすく、活気にあふれ、魅力ある“ふるさと鳥取県”にするために」というテーマで、いくつか質問したいと思います。まず私は今回の学生議会で質問する立場になってみて気付いたことがありました。それは鳥取に暮らす学生、若者が鳥取県について考えるという機会が決定的に少ないのではないかとということです。申し訳ありませんが、私も今回このような機会を与えて頂くまで、鳥取県のことについてほとんど無関心でした。鳥取の未来を担う若者達が自分達の暮らす「まち」「むら」、そして鳥取県について学び、考える時間を持つべきだと改めて思いました。それに関して私は、小学生の時のある授業を思い出しました。それは普段通学したり遊んだりしている校区内のお寺やお店の方に直接話を聞くなどしたことです。今でもその時のことをよく覚えていますが、自分の暮らす町や環境を知ることによって感動する出来事がたくさんあり自分の町や村が誇らしく思えました。しかし、中学や高校になってからは受験に重点がいくこともあり、どの教科も鳥取のことと結び付けて考えるということなどはあまりしなくなっていました。

なので、私はまず自分達が暮らす“ふるさと鳥取県”についての授業が、中学や高校の授業の中にきちんと位置付けられてもいいのではないかと思います。自分の町、村のことを積極的に知ることによって、鳥取に愛着を持ち若者達が「住みやすく、活気にあふれ、魅力ある“ふるさと鳥取県”をつくる原動力になると思います。そのためにも小、中、高を通して継続的に地元の町、村、鳥取県について学習する、いわゆる「地元学」あるいは「鳥取学」を学ぶことは自らの世界を広げることにもなると思います。

次に、私のクラスメイトも多く悩んでいるバスや鉄道などの公共交通機関の利便化についての問題です。部活動などで帰宅が遅い生徒にとって、公共交通機関の本数が減ってしまって部活動そのものに参加できない状況があります。試合などに参加するのも保護者が送り迎えするのが多く、小、中、高で一般化しています。公共交通機関が不便だから利用しない。だからますます公共交通機関が不便になるという悪循環が続いています。公共交通機関の利用者に何かメリットを与えることによって、利用者を増やすことができないのでしょうか。

最後に、全国で1番人口の少ない鳥取県は、昨年人口60万人を切ってしまいました。日本の人口は1億2000万人ですから「鳥取県人」は日本人の約0.5%しかいないということになります。鳥取県の人口がそのまま減少すれば「鳥取県人」は日本人で絶滅を危惧される県人になるのではないかと私は心配しています。このような人口減少の歯止めの為にも、まず鳥取県に住む私達が魅力を感じる県にすることが大切ではないでしょうか。いや、それ以上に他県の人に魅力ある県にすることによって鳥取県へ移住しようという気になろうかと思えます。そのことは鳥取県の人口増加にもつながると思います。

また、そのためにも学生議会だけではなく、女性議会、高齢者議会、子ども議会、障がい者議会などを開き、社会的弱者の声を聞く機会を設け、鳥取県政に反映させることによって「魅力ある鳥取県」をつくることになると思います。以上で私の質問を終わります。ご静聴ありがとうございました。

**(中島議長)**

加藤さんが行いました一般質問に対して、後藤教育次長、答弁をお願いします。

**(後藤教育次長)**

はい。教育次長の後藤です。加藤さんの小、中、高継続通して継続的に「ふるさと鳥取」について学習することは自らの世界を広げることになるというお尋ねについて、お答えを申し上げたいと

思います。

まず加藤さんの「ふるさと鳥取県」を住みやすく、活気にあふれ、魅力ある県にしたいという思いは大変素晴らしいことだと思います。さて、加藤さんのお話にあった小学校の授業なのですが、総合的な学習の時間か社会科の授業ではなかったかと思っております。ふるさと学習を通して感動を覚えたり、自分の町に誇りを持つたりすることは大変意義深いことだと思っております。小学校に比べて中、高ではふるさと学習がきちんと位置づけられていないのではないかというお話ですが、現在の鳥取県の小、中学校、高校で行われている地域学習について少しお話をしたいと思っております。

まずは小学校でございますけれども、小学校3、4年生でまず自分の校区のこと、それから住んでいる市や町のこと、それから鳥取県のことについて勉強します。また総合的な学習の時間でそれぞれの地域によって地域探検というような格好で内容は異なりますけれども学習をしております。1つの例を申しますと鳥取市の佐治小学校ではこんな授業をしております。佐治の特色である「し」の付く言葉、「5し」といいますけれども、5つのしが付く言葉を学んでいくということで、佐治の「石」、それから「和紙」、それから「星」、それから「梨」、「話」。この5つの「し」について実際に梨の袋掛けをしたり、それから和紙をすいたりというようなことをしてですね、いろんな調べ学習をしたり、それをまとめて発表したりすることによって地域に愛着が持てるような学習を小学校では行っています。

次に、中学校でも総合的な学習の時間で地域について学んでいる学校もあります。これも具体的な例を申しますと、倉吉市の久米中学校では地域に伝わる米を積出す歌を調べて、それを実際にその歌を地域の人に学んで学習発表会でそれを自分達で発表するような活動を通しながら地域の伝統文化を勉強している学校もあります。これはでも全ての学校ではございません。

また高校では、それぞれ今、県立高校では学校設定科目という各学校で教科を設定して勉強しております。その中で地域研究とか地域文化とか郷土史という教科を設けて勉強している高校がございます。これも具体例を申しますと米子白鳳高校では郷土史の授業がございます。鳥取の遺跡についていろんな文献を調べて勉強します。白鳳高校は近くに妻木晩田遺跡があります。この妻木晩田遺跡に実際出かけて行って、実際自分の目で見てそれを発掘している人、それから調査をしている人から話を聞いて遺跡についての勉強を深めているというふうな学習を行っています。これらの学習を通して自分のふるさとを知識だけではなく体験的に学ぶということは大変大切なことだと思います。大学進学とか就職等でふるさとを離れても自信と愛着を持って、それぞれのふるさとを語ったり、また、やがてふるさとに帰ってきた時に地域の活性化の一助になるものと期待しております。このように小、中、高とそれぞれの発達段階に応じたふるさと学習は大変意義あることです。ただ加藤さんのお話にあったように、小学校に比べると中学校、高校では確かに地域学習の機会は減っております。これからもいろんな工夫をしながらその地域に合ったふるさと学習を、特に中、高においては積極的に進めてもらいたいと思っております。以上です。

#### **(中島議長)**

林企画部長、答弁をお願いします。

#### **(林企画部長)**

加藤さんから質問を頂きました。公共交通機関の本数が減っていて部活動そのものに参加できないような状況だとか、あるいは試合の時に保護者の方に送迎して頂けなければいけない状況、こうした公共交通機関が不便になってそれで利用しない、それでまた不便になるというような悪循環が続いているのではないかということで、なにかメリット与えたりすることで利用者を増やすことができませつかというご質問でございました。

お話の通り、マイカーが普及したり、過疎化が進行したりということで、県内での公共交通機関の利用者は減っております。こうしたことからどうしても公共交通機関の便数というものが少なくなってきたりまして、決して利便性が高い状況じゃないというふうに認識をしております。そう

した中でも鉄道やバスの事業者の皆さんは、特に通学の時間帯にできるだけ利便になるように配慮してダイヤを設定しております。部活動の生徒の皆さんの通学の便も考慮して、必要に応じたダイヤ改善に取り組まれております。県としましても皆さんからの声を、利用者の皆さんの声を伺いながら、JR等に関するダイヤの改善等に働きかけているところでして、例えば今年の3月のJRのダイヤ改正では、因美線のダイヤ改正でそれまで夕方の部活がちょうど終わるような時間に2時間間隔となっておりました列車を、それでは非常に便利が悪いということでございましたので夕方、智頭方面行きの列車を1便増便して1時間間隔の運行になるように改善をされたりですね、それから朝の智頭から鳥取に向かう列車が非常に混雑していたということで、朝の2便を少し繰り上げて1便と2便とでお互いに分けて乗れるようにして混雑の緩和をするような取り組みがされたり、それから昨年の例になりますけれど、伯備線の方で米子行の列車、これが少し遅く米子に着くために始業時間に間に合わないというようなことがございましたので、これも要望して始業時間に間に合うように繰り上げてもらうと、そういうような取り組みがされているところでございます。

バスについても同じように年々利用者が減少しております、これについては県と市町村、一緒になって運行を支援しているところです。また最近では民営のバス以外に町営のバスだとかNPOでもバスを運行されたりするようになってきております。こうしたものにも支援をしてできるだけ公共交通機関が確保されるように取り組んでいるという状況でございます。公共交通機関の維持や利便性を向上するためには、やっぱり公共交通機関というのは皆のものだという認識に立って、県民の皆さんができるだけ積極的に利用して頂くということが大事だというふうに思っています。それから最近、新しい政権でもいわれていますがCO2の削減ということも大きな問題になっていまして、環境のためにもマイカー利用というものを減らして公共交通機関を利用して頂くというようなことの呼びかけもしているところでございます。

高校生の皆さんにもお願いなのですが、乗って残そうという精神を持って頂いて、通学定期は割引率が高く設定していますので、そういう意味では先程あったメリットもあるわけで、是非通学には公共交通機関を利用して頂きたいというふうに思っております。それから少しマナーの問題もあります。公共交通機関を利用してもらうには乗車マナーというものを守るといのが大事なことなのだと思います。一時、高校生の乗車マナーが少し問題があるよという指摘がありました。今、各学校、それから県や教育委員会、JRの皆様と一緒にあって挨拶やマナーアップをやりましょうということで、「高校生 マナーアップさわやか運動」というのを取り組んでいますけれども、そうした成果で最近ではずい分マナーが良くなったというような声を聞いておりますし、また高校生の中には自分達でそうした乗車運動の輪を広げていこうというようなボランティア的な取り組みもやってくれているところもあるということで、非常に良くなったということで喜んでいるところでございます。

ご質問ありましたメリットをとということですが、なかなか直接のメリットですね、なにか付与して利用者を増やすというのは難しいところがあるのですけれど、今申し上げましたようにやはり公共交通機関、皆で乗って残さなきゃいけない乗車運動、乗りましょうと。自分はマイカーに乗るけれどなにかの時には公共交通機関があった方がいいなということでは、なかなか公共交通機関は残りませんので、利用促進をして頂きたいというふうに思っています。県としても引き続き公共交通機関の利便性の向上ということでは利用者の皆さんの声を聞いて、事業者の皆さんと話し合いをするというようなことも続けていきますし、公共交通機関の利用を皆さんでして頂けるようなキャンペーンとか、そういうものにも取り組んでいきたいと考えているところでございます。以上でございます。

**(中島議長)**

小谷県会議長、答弁をお願いします。

**(小谷県会議長)**

魅力ある鳥取県であるために社会的弱者、優しい県にするためには社会的弱者の声を県政に反映させるよう、学生議会だけでなく女性議会等、議会を開催してはどうかというご提言を頂きました。鳥取県におきましては平成10年に女性議会、19年には高校生議会、そして20年には学生議会。本日は平成21年度の学生議会を開催しているところであります。このような取り組みによって参加頂いた多くの方々に県政により興味を持って頂き、そしてまた参加者の身近な問題についての質問、あるいは要望をお聞きすることができたと感じているところです。

加藤さんのおっしゃる通り、県政の運営にあたっては県民の皆さんの声をお聞きし、県政に反映させていくことが大変重要だと思っております。そのためには多くの方々のご意見をお聞きすることが重要であります。この学生議会のような形式の場合、参加者は限定されてしまう。そしてまた時間の制約をされてしまう。多くの方々のご意見を伺うには適さない。そういう時間帯が短いためにそういうことは適さないことがあるとは思っております。現在、鳥取県では、県民の皆さんへのご意見を伺う取り組みとして、皆さんからの疑問や質問にお答えする県民の声や、そしてまた新しい施策を求める時にはパブリックコメント、また鳥取力創造のびのびトークとか、いろいろなことを知事部局等々で県内各地で開催しているところであります。ご提案のように、学生議会をはじめ女性議会、老人議会等を毎年集中的に行うことについては日程面をはじめ、また現実的には非常に難しい部分も多くあると思っております。皆さんのご意見をお聞きし県政に反映させることができることは知事をはじめ執行部の皆さんにもお願いしたいと思っておりますし、我々県議会議員としては議員1人1人が各地38名おりますので、更に皆さんのご意見を拝聴しながら県政に反映したいと思っております。

#### **(中島議長)**

続きまして鳥取短期大学、前橋佳恵さん、お願いします。

#### **(鳥取短期大学 前橋佳恵)**

はい。私は鳥取短期大学から参りました前橋佳恵と申します。宜しくお願ひ致します。本日は3つ質問がありますのでひとつずつ述べさせていただきます。

まず1つ目は、観光客誘致についてです。私は鳥取で「よさこい」をやっています。私たちのチームは結成されて8年目です。私のよさこい歴も8年になり、現在私はチームの代表をやっています。鳥取県東部を中心に出演を依頼されて年間約40公演行っています。大会にも出場し、今年はしゃんしゃん祭りすずっこ踊りグランプリを頂きました。出演がある度にたくさんのお客さんに見に来て頂き本当に嬉しく思っています。よさこいを始めてから、私は町をもっと魅力的にするにはどうしたらよいか、また私たちも町の魅力づくりに貢献することができないかと思ひ始めました。更には魅力的なまちづくりを進めることで、もっと県外からの観光客を増やすことができないか考えるようになりました。

そこで質問ですが、鳥取に観光客を呼び込むために現在どのような取り組みが行われていますか。また鳥取自動車の一部開通し、それに合わせて因幡の祭典が実施されましたが、道路を作ったことによって実際に観光客は増えましたか。そしてこれから先、どの程度観光客が増えると思ひ込んでいますか。

2つ目は、予算編成についてお伺ひします。今年の夏休みに私は授業の一環として介護施設と養護学校の実習に行きました。実際に体験し触れ合うことで分かったことがたくさんありました。私たちが普段生活をしている環境とは違うこと、またそれぞれの症状や病状の重さなどを肌で感じました。そこで、そうした援助が必要な人がよりよい生活を送ることができるようにするため、予算を計上する際、県ではどのような方針で福祉に対する予算を編成しておられるのでしょうか。また、こうした人々がよりよい生活をしていくための具体的な取り組みにはどのようなものがありますのでしょうか。

そして最後3つ目は、私たちにとってとても重要な雇用と労働の問題です。私は短大の2年生で

現在就職活動をしているところですが、仕事を選ぶ際に重視しているのはその仕事にやりがいを感じられるかどうかです。自分が頑張っただけ認めてもらうことができるのか。そして長期的な視点から人材を育成して下さる企業かどうか。私達のように未熟ではあるけれどもやる気のある若者たちに期待してくれているかどうかを考えながら就職先を探しています。

しかし残念なことに、近年は雇用情勢の悪化により就職状況もあまりよくなく、企業はとにかく即戦力を求めがちです。またやっと就職したはずの若者の離職率も高いと聞きます。私はしっかりとその職業のことを理解した上で就職し、そしてまた就職後も向上心を持って仕事に取り組みたいと考えています。

そうした職業理解の観点から県では大学生に対するインターンシップを実施されているようですが、大学生に限らず皆がやりがいを感じながら仕事を続けていくために、既に企業等に就職している人でもキャリアアップのために他の企業等での研修を推進する制度、またよりよい職場環境で働けるよう、被雇用者が自社の職場環境を改善したり社員のストレスを軽減させたりするための支援制度を拡充して欲しいと考えます。

以上3点につきまして宜しくお願いします。ありがとうございました。

#### **(中島議長)**

前橋さんが行いました一般質問に対して、野川文化観光局長、答弁をお願いします。

#### **(野川文化観光局長)**

はい。前橋さんから観光客誘致についてご質問を頂きました。お伺いしましたところ、前橋さんはよさこいをやっておられるとことでありまして、ついこの間終了致しました日本のまつり2009鳥取におきましても高知県高知市からよさこい鳴子踊りを踊って頂きましたけれど、ほにやという団体にご参加頂きまして本場の高知から10日と11日、2日間、若桜街道とコカ・コーラウエストパークで踊って頂きまして、まつりをおおいに盛り上げて頂きました。ご紹介をしておきます。それと申し遅れましたけどもグランプリ受賞、おめでとうございます。

ご質問の観光客を呼び込むための対策でありましたけれども、今、申し上げました日本のまつりもその対策の1つでありましょうし、それからご参加されているとお聞きしました毎年行われている鳥取のしゃんしゃん祭り、これも観光対策の1つであろうかと思えます。それからその他にもたくさんやっているのですけれども、前橋さんもご存知だと思いますが鳥取県はゲゲゲの鬼太郎とか、あるいは名探偵コナンとか、水木しげる先生、青山剛昌先生などたくさんの漫画家を輩出している県でありますので、鳥取県と致しましてもまんが王国鳥取ということ进行全面に出して国内はもとより海外にもPRを一生懸命やっているところであります。

それからまた最近の取り組みを申し上げますと、鳥取砂丘や浦富海岸を代表と致します山陰海岸を国内あるいは海外にPRしていくということでありまして、ユネスコが支援をしてくれております世界ジオパークのネットワークに加盟する取り組みを一生懸命やっております。ジオパーク、ジオは地球といいますか、地質といいますか、パークは公園でありますけれども、ジオパーク、普通言われていますのは美しい地質遺産がたくさんある自然公園という言い方をしています。山陰海岸でいいますと美しい地質遺産のたくさんある海岸ということになると思いますが、その取り組みを今、一生懸命やっているところでございます。

それからもう1つだけ申し上げますと、鳥取県は国際観光にも大変力を入れております。米子と韓国のソウルを結ぶ国際定期航空路もありますし、それから6月の末に航路ができました境港と韓国の東海を結びます環日本海定期貨客船、これを利用致しまして主に韓国からでありますけれどもお客さんの誘致に一生懸命、今、全力で取り組んでいるところであります。

次に鳥取自動車道の整備と、それから観光客数についての関係についてのお尋ねがありましたけれど、これ非常に難しいご質問なのですけれども、今年の3月14日に河原インターチェンジが開通致しました。その開通だけの効果ではないかもしれませんが、道の駅かわはらというのがご

ざいますが、3月と4月のあそこを訪れた方のお客さんの数はですね、例年より2万人ぐらい多ございましたし、5月は5万人以上近く増加があったというふうに聞いております。そのような効果があったのではないかと考えています。それから次に、更にですね、兵庫県の佐用ジャンクションから鳥取のインターチェンジ、これがいわゆる鳥取自動車道というわけですが、ここが開通致しますと通行料が無料というのがこれがいちばんの売りになるわけですが、今、鳥取と大阪がだいたい3時間20分車でかかっておりますけれど、これが開通致しますと2時間半になります。50分も短縮になるわけでありますので、具体的な観光客数がいくら増えるかというのはなかなか具体的に申し上げられませんけれども、かなりの数のお客さんが鳥取、あるいは鳥取県において頂くことになるのではないかと大いに期待しているところであります。ただその際にいちばん大事なことはですね、やはり鳥取県内の観光地の魅力づくり、これを更にしっかり進めていくことが重要だと考えておまして、関係者の皆さんと一丸となってその取り組みを進めて参りたいと考えております。以上です。

#### **(中島議長)**

磯田福祉保健部長、答弁をお願いします。

#### **(磯田福祉保健部長)**

福祉保健部長をやっております磯田と申します。前橋さんのご質問にお答え致します。援助の必要な人がよりよい生活を送ることのできるための予算計上の際の方針と、具体的にはどのようなものになるのかというに2点についてお答えしたいと思います。

この度、前橋さんは本当に介護施設でありますとか養護学校等、貴重な体験をなさったと思います。とかく書物やインターネットに頼りがちの中で、実際に現場に出向かれまして体験し人々と触れ合って頂いたことは本当に貴重な体験だと思えます。福祉や医療、本当に必要になさる方の気持ちやニーズを理解して頂くことはとても大切なこととございます。次の世代を担う皆さま方に1人でも多く、このような実際の体験をして頂くようなボランティア体験事業などの推進を進めているところであります。私たちもこのようなことを引き続き熱心に取り組んでいきたいと思っております。

さて、予算編成にあたっての方針でございますが、福祉の分野は大変広うございます。例えば福祉保健医療を担当致しておりますが、医療でいいますと今流行っております新型インフルでありますとか病院のこと、また福祉では子ども、高齢者、障がい者とか地域の福祉とさまざまな点を担当致しておりますが、予算総額でも、当初予算といいますけど21年の当初予算で3400億円のうち447億円、約、県の13%の予算を担っております。その方針につきましては「安心で元気で、人と地域と社会の共生を目指した福祉保健医療の実践」を大きな方針に掲げております。実際に体験されましたように県民の皆さまの視点に立った行政スタッフの展開のために、現場にまず出かけて行って関係者の皆さんのニーズを頂きながら施策に反映するように取り組んでいるところであります。

またその具体的にはですね、実習でご覧になったような介護施設の他に住み慣れた地域でいつまでも暮らしたいという皆さんご要望を持っておられます。住み慣れた地域で引き続き安心して暮らしていきたいというニーズに応えるために、鳥取県では鳥取型共生ホームというのを進めておまして、ここではその障がい者だけとか子どもさんだけというのではなくて、障がい者も子どもさんも、お年をとった方も一緒にそこで日中を過ごしたりとか、時には泊まったりしながらする鳥取ふれあい型共生ホームも力を入れて整備を進めております。そうすることによって地域の皆さまもそこに通ってこられたり、見学に来られたりとか遊びに来られたりということもできまして、地域福祉が推進して参ります。そのような観点から実態を聞きながら創設した制度でございます。

とにかく課題は現場にありまして、解決方法も現場にございます。これからも福祉や医療の援助が必要な方がたによりよい生活を送ることができるよう、この度、前橋さんが現場から学ばれたよ

うなことの観点から施策に反映しながら、県民視点に立った制度や事業の充実を図っていく所存でございます。以上でございます。

**(中島議長)**

門前商工労働部長、答弁をお願いします。

**(門前商工労働部長)**

鳥取短期大学、前橋佳恵さんから頂きました雇用・労働問題についての質問について答弁をさせていただきます。

働く目的は人それぞれいろいろあると思いますが、その1つに前橋さんがおっしゃった社会の一員として自己実現を図る。言い換えれば仕事にやりがいを感じるということがあると思っております。そのためにはまず社員1人1人が、不断に能力の向上、キャリアアップが図られその能力が仕事に役立つといったことを実感できるということが必要だということ考えております。フィンランドでは、林業中心の産業構造でございましたけれども、現在では携帯電話で有名なノキアなどIT産業を中心とする国に急成長しております。その要因はいろいろあると言われておりますが、その1つに社会人が仕事をしながらさまざまな教育を受けて自己の能力を高める、そういった環境が整っているということがその原因の1つであるということと言われております。鳥取県でもこうしたフィンランドの取り組みを真似させて頂きまして、今年度からビジネスキャリア形成講座としまして、社員の方々の能力向上に取り組むような、そういった養成の講座というものも設けさせて頂いているところでございます。

また仕事にやりがいを感じるというためには、社員1人1人が働きやすい職場であることも大切な要素であるということ考えております。近年、仕事と生活の調和「ワークライフバランス」という言葉をお聞きになったこともあるかと思っておりますけれども、社員が生き生きと働くことができ、生活も充実している、そういった仕事である職場づくりということも県としての1つの役割だと考えているところでございます。お1人お1人が持てる能力を充分に発揮して、生き生きと働く。こうしたやりがいのある職場づくりは非常に重要なことだと考えておりますので、前橋さんから頂きましたご提言も含めまして、今後も引き続き県としても努力をして参りたいというふうに考えております。

前橋さんは就職活動中ということですのでいろいろなお苦勞があると思っておりますけれども、是非やりがいの持てる仕事を見つけて頂きますように、心から期待を致しております。以上です。

**(中島議長)**

続きまして、米子工業高等専門学校、長尾健さん、お願いします。

**(米子工業高等専門学校 長尾健)**

米子工業高等専門学校の長尾健です。本日は衰退する地方都市に対する県の取り組みについて質問したいと思います。

近年、景気の悪化や少子高齢化、人口の減少などのさまざま理由により地域経済の低迷、地方都市の衰退が問題視されています。私の住む境港市でも消費者の魚離れや漁獲量の減少などの問題を受け、市の基幹産業である水産業は活力を失い、廃業する事業者が増え、結果として市の経済状況の悪化などが起こっています。そのため境港市ではゲゲゲの鬼太郎が代表作として知られる水木しげるの出身地であることを活かし、境港駅と駅前商店街とをつなぐ道路を水木しげるロードと名づけ、観光スポットとして整備することで県外から観光客を呼び込み、市の収益向上を図っています。

その結果、水木しげるロードは県内有数の観光スポットとなり、毎年多くの観光客が訪れております。しかし、あくまでも境港市の基幹となっている産業は水産業であるため、水産事業者に利潤の少ないこのような政策だけでは根本的な市の収益向上ということにはつながらないように思います。県は境港市の水産事業者の活力向上についてどのような取り組みを行っていかれるのでしょうか。

また、鳥取県には農業を基幹産業としていますが、高齢化や収益の少なさにより米作りなどを行うことのできない市町村、あるいは林業を基幹産業としているものの海外からの安い材木の流通や景気の悪化などにより経済状況が苦しくなっている市町村などがたくさんあるように思います。こういった問題を解決するため各市町村は独自の政策を行い、景気の立て直しを図っていますが、基幹産業という市町村を支えている部分が揺らいでいる状態で行う取り組みでは、今後の景気を良くしていくことは不可能であると思います。そのため水産業や林業や農業などを基幹とした様々な市町村が互いに協力し、それぞれの特色を生かした複合的な地域づくりや観光スポットの設置こそが、今後の市町村の活性化、ひいては県の発展につながっていくのではないかと思います。そしてこのためには県が各市町村の架け橋となり、積極的に互いが連携しやすい環境を作っていく必要があると思います。県政としてはこういった地域活性化のための市町村の取り組みとその現状に対して、どのように考え、現状を打破するためにどういった取り組みを行うつもりであるか、具体例も交えて教えて頂きたいと思います。

**(中島議長)**

長尾さんが行いました一般質問に対して、葉狩水産振興局長、答弁をお願いします。

**(葉狩水産振興局長)**

長尾さんから境港市の水産事業者の活力向上について、県はどのような取り組みを行っているかの質問を頂きました。答弁を申し上げます。

長尾さんは境港市にお生まれになって、聞きますとご両親が境港市で水産加工業を営んでいらっしゃる。そういう意味でこの質問は大変切実な問いを提起しているというふうに思います。県と境港市の水産業との関わりというものについて前置きをしておきたいと思いますが、長尾さんは先行ご承知だと思いますけれども、境港市の昭和町の卸売市場、あれは県が直営している県営の市場、全国でも県が直営している市場というのは3つしかございません。そのうちの1つです。そのために卸売市場の中には水産の出先機関である境港の水産事務所を設置致しまして職員を配置しております。また特定第3種漁港ということで、境漁港は県が整備し県が管理している漁港であります。そのような意味で市場の開設者であり漁港の管理者であるというような関わりをしているということがございます。

また、加えて申しますと竹内のほうに水産試験場、これの本場がございまして、試験研究の中心になって研究を行っている。試験船の第一鳥取丸であるとか、あるいは取締船の隼、こういうものが係留しておりまして、そういう意味で境港は鳥取県の水産振興のいわば1つの中核基地であるというふうにも認識しております。

ご指摘を頂きましたように、かつて平成5年の頃には、境港市の水揚げ量は69万1000トン。これが昨年の20年は10万7000トン。約7分の1に減少しております。ただ全国的に見ますと3000あまりある漁港の中でこの10万7000トンというのは第12位。それから皆様、あまりご存じないのかなと思いますけれども、境港には約200種類もの魚介類が年間を通じて水揚げされている。そのようなデータを捉えますと境港の水産基地としてのポテンシャルはまだまだ高いというふうに認識をしております。皆さんにもそのようにご理解して頂きたいと思っております。

しかし、この大量水揚げの時代に、やはり大量処理できる産業は形成されて、境港において発展してきたということでもありますので、平成5年以降3、4年でこれまで5、60万トン程度ありましたマイワシは3、4年ぐらいで10万トンレベルにまで急激に落ち込んだ。そういう事態に対してやはりなかなか産業の構造転換というのが容易に図れなかったというふうな実態があると思います。要因を改めて整理してみますと、やはりマイワシとかサバなどの多角性の回遊魚、これは資源の変動が非常に多いと言われておりますので、こういう回遊魚にもっぱら主に依存してきたという点。あるいはその大量に水揚げされたマイワシをエサ用に冷凍加工して出荷販売するとか、あ

るいはフィッシュミールにしてこれもエサ用に出荷販売するとか、どちらかというと比較的付加価値が低い加工業が営まれてきたというようなことが1つの境港市の水産加工業の1つの衰退の要因でもあったかと思っております。

これら限られた回遊魚の大量水揚げである大量処理型の産業構造から、先ほど申しました200種類あまりの水揚げがあるという多様な資源を活用して、付加価値の高い産業構造への転換というのも大きな課題であると。目下関係者はそういう問題意識を共有致しまして一丸となって取り組みをはじめているところでございます。県の取り組みはと申しますと、今言いましたような機関等を通じまして境港に水揚げされる貴重な地域資源を生かした多様で競争力のある産地づくり、関係者が取り組んでおられる取り組みについて全面的に支援をしていると。少し細かな内容になりますけれども具体的に申し上げますと1つには集荷力の向上、水揚げがなければ境港市の産業は成り立ちません。そのためには県内の船ばかりではなくて県外の船が境港市に水揚げをして頂くと。そのためには市場そのもののいろんなサービス機能、サービスが向上するというふうなことを通じて県外漁船が境港市に水揚げされやすいような環境を整備すると。そのために実は平成21年度から指定管理者制度というのを導入致しまして、民間に市場の運営をお願いするというふうな取り組みを致しました。また多様な水揚げ水産物がございまして。これも商品力の向上、マグロ、境港のクロマグロは有名でありますけれども6月から8月までの、例えば季節商品、生鮮で出荷致しますので、これが市場のニーズによりますと周年境港からマグロが市場に出荷できるような体制というのを望まれております。そのためにはやはり冷凍できる施設等が必要になります。平成21年度はその冷凍試験を市場の中で試験的にやって、これから11月に年末商戦等に向けまして冷凍マグロを出荷して市場の反応を見ようというふうな取り組みの支援をしております。それから販路の拡大で、これも平成20年度からの取り組みですけれども、やはり消費地のほうからのニーズというのは、例えば水産物、農産物をセットにしてトラックに混載して、鳥取県の水産物、農産物というものを産直するというふうな取り組みも求められておまして、これも実験的に20年度から行いまして、いろんなそういう販路拡大の取り組みの支援を行っております。

また長尾さんが申されましたけれども、水木しげるロード効果は年間130万人に及ぶ観光客、この観光客をやはりこの市場と結ぶというのが大きな課題であります。これも今年度からマグロの市場の競り風景等を見る観光ツアーを始めましたし、それからお魚ガイドさん、女性の方お2人お願いを致しましてガイドができるような体制を組みました。観光産業との連携を深めてみると。そういうようなことを県としても積極的に進めております。

もう1点紹介致しますと、現在境港では水産業を核とした長尾さんがおっしゃいましたような地域産業の総合的な活力向上、このために漁業生産者、加工流通事業者、観光事業者、あるいは金融業の方などを含めまして幅広い民間関係者からなります、長い名前ですけれども境港地域水産業構造改革推進プロジェクト協議会という非常に長い名前ですけれども、いわゆる構造改革を進めようというふうな協議会を立ち上げておまして、省エネ漁船の導入であるとか水産物はもちろん付加価値向上であるとか、今、申しました観光産業との連携等総合的な取り組みをしております。平成20年度はベニズワイガニ漁業を主に対象に致しまして、省エネ漁船を導入したり高付加価値化に取り組んだり、あるいは流通販売場面での衛生管理を強化する取り組みとか、あるいはベニズワイガニを使った料理の普及とかいうハードからソフトに至るまでの様々な取り組みをやってきたと。平成21年度はアジ、サバ、マグロなどを獲られますまき網漁業、これを中心にした同様の計画を今、策定して構造改革を進めているというような状況でございます。県と致しましてもこうした水産関係者の創意工夫、あるいは取り組みが着実に進みますように、その検証も行いながら協力支援致しまして、境港地域の水産業の体質強化と活力向上に努めて参りたいというふうに考えております。以上です。

**(中島議長)**

林企画部長、答弁をお願いします。

**(林企画部長)**

長尾さんの質問に対して答弁をさせていただきます。ご質問は水産業や林業、農業などを基幹とした様々な市町村が互いに協力して、それぞれの特色を活かした複合的な地域づくりや観光スポットを設置することが活性化、ひいては県の発展に不可欠ではないかと、そのために県として市町村がそうした連携をとったりすることに対して積極的に架け橋になって取り組むべきだと。活性化のための県としてのそうした取り組みについて具体例も交えてというお尋ねがあったと思っております。答弁をさせていただきます。

県の経済状況というのは今、厳しい状況にあるわけでございますけれども、こうした中でもこうした状況を打開して活力のある地域づくりを作るためには、おっしゃる通り県や市町村。それに更には民間の事業者の方だとか住民の方々だとか、互いに連携し協力をし合って地域の課題、それから地域の資源を活かした取り組みということをしていく必要があるというふうに考えています。その点については長尾さんのおっしゃるようなことだろうと思っております。このために県では広域で、あるいはいろんな分野、他分野同士が連携して魅力を高めるといふことに対して市町村と一緒に取り組んでいるところでございます。

例えば観光の面でいきますと広域的な取り組みというのがありまして、例えば鳥取県、島根県、あるいはその両県の市町村や経済界が連携して、山陰文化観光圏というのを作って、そこにある観光資源をいろいろ一帯として売り出したり、あるいはメニューとして魅力を高めていこうとか、更には県の、本県の中部でも市町村とそれから岡山県の蒜山地域も一緒になって、鳥取梨の花温泉郷というようなことで、ここで温泉だとかコナンの里だとか、そうしたいろんなものを一緒に連携させる取り組み。それから県の西部でも米子境から大山までの大山パークウェイという、そういうルートでその風景の素晴らしい道というか、そうしたものをPRしたり、それから今は砂の祭典という美術館というのをやっておられますけれども、県の東部4市町村が鳥取・因幡の祭典ということで砂丘フェスティバルをやられたという、こうした広域の取り組みもやられております。それから食のみやこ鳥取県ということをお聞きになったことがあると思っておりますけれども、こうしたテーマで鳥取県のおいしい産物を県内外に発信していこうというふうにしています。こうした取り組みで、東京に鳥取県のアンテナショップを作って、食のみやこ鳥取プラザとして、そこで県の産品を、いろんな産品、各市町村なり各地域のものを東京で情報を発信していくとか、または境港市の経済界の方がマグロを利用して鬼太郎マグロラーメンというのを作って売り出しておられたり、そういう連携があるということでございます。また農林業と商工業、これらの連携の取り組み、農商工連携とも言いますが、こうした取り組みも進めておまして、例えば農村で体験をするというようなことを行うグリーンツーリズムというような観光の取り組みだとか、それから商品で言えば智頭杉を使って日除けのブラインドを作る、そういうような商品。それから健康食品としてのラッキョウを使った健康食品というような商品作りだとか。そうした連携を取った取り組みもなされているところでございます。

今後も県として、こうした広域での取り組みや地域の資源を活用した取り組みを支援していきたいというふうに考えておるところでございます。ただ、これからの地域づくりというか地域の活性化というのは、県や市町村の行政だけではやっぱり難しいのかなというふうに思っております。鳥取県というのは小さいですがその分、人と人が知り合えるというネットワークが作りやすいという面があると考えております。このネットワークを活かして地域の力を皆が合わせる。バラバラではなくて先程長尾さんからもありましたけれど、連携をする、協働するというようなことで地域の優れた資源や技術やあるいは人を活用した地域づくりを進めることが大事だなというふうに思っております。県としてはそうした皆で連携して地域づくりに取り組む運動というのを今、鳥取力創造運動ということで進めておりますので、是非こうした面にも目を向けて頂いて、一緒になって

取り組んで頂ければと思います。以上で答弁とさせていただきます。宜しくお願いします。

**(中島議長)**

続きまして、米子工業高等専門学校、山池千奈緒さん、お願いします。

**(米子工業高等専門学校 山池千奈緒)**

米子工業高等専門学校生産システム工学専攻の山池千奈緒と申します。本日は鳥取県のCO<sub>2</sub>削減への取り組みについて質問したいと思います。

先月、鳩山首相の「日本の温室効果ガスを2020年までに1990年比25%削減」を目標とする発言がありました。この温室効果ガスの大部分を占めるCO<sub>2</sub>を削減する取り組みは近年、国際社会において重要な課題となっています。

鳥取県では「環境立県」を目指して、環境に関する様々な施策が行われていると聞きました。その中で公共交通機関の利用促進を図るとともに、アイドリングストップ条例などによってCO<sub>2</sub>削減に向けた取り組みが行われているようです。しかし更なるCO<sub>2</sub>削減のためには、低公害車の普及が重要になると思います。現在、三菱自動車のi-MiEVの発売が間近に迫り、慶応義塾大学発のベンチャー企業「シムドライブ」が話題になるなど、世の中に電気自動車が普及し始めています。電気自動車はガソリン車やハイブリット車に比べ、価格は高いもののCO<sub>2</sub>排出量や燃費消費率は低いといえます。このことから鳥取県にも電気自動車を普及させるべきだと思います。電気自動車そのものがCO<sub>2</sub>削減につながりますが、家庭に太陽光発電パネルを設置すると節電の意識が高まり、電気をこまめに切るようになるなどの効果が得られています。それと同様に電気自動車を普及することによって、CO<sub>2</sub>削減に向けての意識が高まるのではないのでしょうか。私の所属している研究室では、環境学術研究振興事業として助成金を頂き、電気自動車の車輪滑り防止制御技術を開発し、エネルギー効率の高い駆動システムの開発を目指しています。現在、このように県内で電気自動車関連の研究をしている高等教育機関は米子高専しかありませんし、企業もさほど多くないという現状です。

ここで質問に入りますが、これまで述べてきたような事情を考慮し電気自動車を普及させる第一歩として、インフラストラクチャーである充電ステーションの建設が必要となると思われます。このことについてどうお考えでしょうか。何か具体的な政策案をお持ちでしょうか。

**(中島議長)**

山池さんが行いました一般質問に対して、法橋生活環境部長、答弁をお願いします。

**(法橋生活環境部長)**

米子工業高等専門学校の山池さんのご質問にお答えしたいと思います。山池さんのご質問は鳥取県のCO<sub>2</sub>の削減、特に、電気自動車の普及のためのインフラ整備についてどういう施策を持ち合わせているかということだったと思います。その前提になりますのが、この温室効果ガスの一種でありますCO<sub>2</sub>、こういう二酸化炭素を排出する温室効果ガス、こういったものを削減して、今、我々の人類を脅かしているこの地球温暖化、地球環境の問題、こういったことに対処すべきではないかということだろうというふうに思っています。鳥取県の方でもこの問題につきましては、従来から非常に積極的に取り組んで参っております。ご指摘のありましたようなアイドリングストップですとか、それから公共交通機関のいわゆる利用促進。そういったことによって環境の付加を少なくしていくというような取り組み、こういったことも進めてきておりますけれども、今年の2月の定例議会の中でひとつの条例が制定されました。鳥取県地球温暖化対策条例という条例でございます。この条例は従来、通常ですと我々執行部側がいろいろな課題に対して条例をまとめて議会の方にお諮りするという形で条例制定するのがごくごく普通なやり方なんですけれども、議会の方には議会の権能として議員の皆さんがそれぞれ自分で独自に条例を作ってですね、それを提案して、議論をしながらそういったものを制定していくという仕組みも合わせてございます。あの、この条例はそういった条例でございまして、議会の皆さんのご努力によって地球温暖化のために鳥

取県が取り組む施策を盛り込んだ、盛り込んだ形で条例が制定されております。

その中でちょっとご紹介致しますと、今年の6月1日からこの条例、施行されておりますけれども、1つには県や市町村という行政ばかりじゃなくて県民、それから事業者の皆さん、こういった方々も一緒になってこういった地球温暖化対策のほうに取り組んで頂くということでいろいろ規定をしておりまして、排出量ですとかそれから削減目標、そういった情報というものを皆で一緒に共有しましょうということが大前提になっております。

それからもう1つはその低炭素社会っていわゆるこういうCO<sub>2</sub>をあまり排出しない社会というものに向けて、そういった社会を作るためにどういったことを県民の方でやって頂くかということいろいろ規範として明示しております。1つには廃棄物の削減。あまり廃棄物を出さないようにする。再使用したりあるいは再生利用っていうものを進めていくということが1つあります。それから再生可能エネルギー。まあこれは太陽光の発電ですとかいわゆる風力発電ですとか、それから小水力の発電ですとか、いわゆる自然に由来する再生が可能なもののエネルギーですけど、こういったものを積極的に作り出して積極的にそういったものを使っていきましょうということが1つありますし、それからCO<sub>2</sub>を出す方じゃなくて吸収する、そういった森林ですね。こういったものを保全したり、あるいはその保全をするために県産材、県の森林で作られた木材、こういったものをどんどん積極的に使しましょう。あるいは環境に非常にやさしい商品、そういったものを積極的に利用していきましょう。こういったことをたくさん、こういったことをやりましょう、こういったことやりましょうということを条例の中で規定しております。更に来年4月からになりますと温室効果ガスをたくさん出している事業活動を行っている事業者の皆さん、それから大きな建物を建ててですね、その中の活動の中で温室効果ガスを出されるような方々、こういった方々にいろいろその排出量の目標だとかということを設定して頂きまして、そのためにどういった取組みをやるかというようなことも報告してもらおう。こういったことも来年4月から施行するというようなことで考えております。

そういった形で県の温暖化対策ってものを進めて参っているわけですがけれども、じゃあ一体どういふふうになっているんだということがございます。先程ございましたように、あの鳩山首相が先程の国連の総会の中で演説をされまして、1990年に比べて25%、2020年までにこの温室効果ガスっていうものを削減していきましょうというこういう提案をされ、公約をされました。これは国際公約ということになるんだと思いますけれども。まあこれは非常に厳しい公約だということで、世界的には非常に評価された公約ということでございます。1990年比で現在のCO<sub>2</sub>の排出量は全国でいいますとだいたい10%以上増えている状況でございます。その段階からさらに25%をこう削減していくってことですから、非常に我々にとって厳しい目標値だろうというふうに認識しているんですけども、鳥取県の場合2008年度での統計でいきますとだいたい4.5%くらい1990年の時から増えているんですね。ただこれはですね、ちょっとこの中身を分解していきますと、森林吸収ですとかそれから新エネルギーというもので発電しているものを、その4.5%伸びた排出ガスの量から控除していきますとだいたい1990年比8.8%くらいダウンしているってことでございます。ある意味では鳥取県内でいけば目標はある程度達成できているということになるかと思えます。ただ、これ要因を細かく分析していきますと、非常にやはり経済的要因がたくさんある。経済が急激に冷え込んだということで、経済の冷え込みに伴ってそういったエネルギー消費っていうものが落ち込んできたということでございます。それがいちばん大きいんじゃないかというふうに考えております。

そこで我々、非常に考えなくちゃいけないのは、これから地球温暖化、温室効果ガスを減らしていく、地球温暖化を防止していくという時にどういう姿勢をとるかということなんです。1つは経済をどんどんどんどん冷え込ませていけばエネルギー消費は落ちていきます。我々の生活を貧しく貧しくしていけば、そういった意味では温室効果ガスを削減することができる。果たしてそれでい

いんだろうかということ。皆さんもそうですけど、寒い中でも我慢して火を焚かないという生活に耐えられるかどうかということがひとつ考えられると思います。私たちは、そうじゃなくて県民の皆さんが環境に優しいライフスタイルをしながら、豊かな暮らしをしながら温室効果ガスっていうものを減らしていく、そういった道を辿りたいというふうに考えているわけでございます。そういった意味で鳥取県の中ではグリーンニューディールっていう戦略をこの春に立てました。申し上げましたような豊かな成長戦略というものを、この環境に配慮した形で実現していく、そのための戦略っていうものを立てたということでございます。

それでその中で、やはり1つ運輸部門での温室効果ガスの排出量削減という、非常に重要なテーマでございます。全国でいきますとだいたい2割くらいがこういったところの排出ということになりますけれども、鳥取県の場合、非常に自動車交通に依存する比率が高いものですから24%くらいこういったものが占めるということになっております。ですからこういったものから出てくるCO<sub>2</sub>を削減するという非常に大きなテーマになってくる。それで先ほど指摘頂きましたように、その中で電気自動車を導入する、普及させていくっていうことは非常に大きなテーマになって参ります。山池さん自身、高専のほうで研究室のほうでなんかそういったシムドライブの関係ですかね、そういう車輪の防止どめの車輪の滑り防止というような研究もやっておられるということなのですけれども、鳥取県におきましてもやはりこういった電気自動車をはじめとするエコカーというものを普及させる。あるいは県内でこういったものを作り出していき、生産していくために研究会というものを作っております。これは県だけではなくていろんな研究機関、それから産業界の皆さんと一緒にこういう研究をやっていこうということでございます。電気自動車を普及させるためには先ほどご紹介がありましたように、やはりインフラの整備というのが非常に重要になってきます。現在ガソリンスタンドでいつでもガソリンを注ぐことができますけれども、電気を充電することはまだできません。ですから、そういう充電をする場所というものを県内に設置していくというのは大きな課題になって参ります。

それから、もう1つ言いますとやはりまだまだ電気自動車は非常に高価だということです。実は今日午前中に電気自動車に私も乗って参りました。ご質問の中にもありましたi-MiEVという車が鳥取市内のガス会社のほうに導入されたということで、是非乗ってみてくださいということでそのお披露目会に行行って参りまして乗って参りました。まあ非常に静かで馬力も非常にありますし、非常に良いものなのでしょうけれども、実際補助金を入れて300万円ぐらいするという、軽自動車ですけれどもね。そういった価格になっていますのでもうちょっとこれを低くして、安いものにして皆さんが手に入れやすいようにしていくというのが1つの大きな課題になってくるだろうというふうに思っています。それと今のインフラの整備というようなことが非常に大きな課題になって参りますので、これからその研究会の中で鳥取県でもそういったものの普及が進むように、いろんな具体的な施策を作り出していきたいというふうに考えております。以上でございます。

#### (中島議長)

続きまして、鳥取環境大学、江藤賢佑さん、お願いします。

#### (鳥取環境大学 江藤賢佑)

皆さん、こんにちは。鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科3回生の江藤賢佑と申します。本日は学生の身分でありながら、このような議場に立つという貴重な経験をさせて頂いたことに非常に感謝しております、ありがとうございます。私は鳥取県に対して3つの質問があります。早速、質問をはじめさせて頂きたいと思っております。

まず1つ目は地域の活性化のビジョンについてお伺いしたいと思います。近年盛んに地域の活性化ということが叫ばれておりますが、その活性化したと言われている地域には地域ブランドというものがあります。鳥取県の活性化というものを考えた場合、お金があればいいものなのでしょうか。「活性化＝お金」という面での豊かさというものだけではなく、同時に心の豊かさというものが必

要になってくると思います。そのような点を踏まえまして、鳥取県の活性化のビジョンというものを伺いたいと思います。

2点目は産業構造の転換について伺いたいと思います。鳥取県のGDPを分析し産業構造を分けてみますと、農林水産業部門は他県の平均を大きく上回っており、また製造業の電機産業、食品産業というものも他県の平均を大きく上回っているという現状があります。しかしながら、製造業の中でも輸送機器や石油化学工業、精密機械産業というものは他県の平均値を大きく下回っているという現状があります。今後の鳥取県の産業構造を考えたときに他県の平均を大きく下回っている弱い産業というものの育成ということが急務となってくると思います。今後、その弱い産業というものをどのように伸ばしていくのかということをお聞きしたいと思います。

3つ目の質問ですが、鳥取自動車道の開通に伴って、関西と鳥取との間で車での所要時間が短くなると先ほどおっしゃっていましたが、それに伴いまして交流が盛んになり、鳥取の経済圏というのが関西の姫路や神戸といった大都市の経済圏に吸い込まれてしまうというストロー効果という現象が発生するのではないかと考えています。ストロー効果というものが発生し、鳥取の経済圏が関西の経済圏に吸い込まれますと鳥取の経済圏というものがますます崩れていきさびれていくのではないかと思います。過去には東北新幹線の開通に伴いまして、八戸市の経済圏というものが仙台に吸収されたという事例もあります。鳥取県ではこのような件に関しまして何か対策をお考えでしょうか。以上3点について質問したいと思います。

**(中島議長)**

江藤さんが行いました一般質問に対して林企画部長、答弁をお願いします。

**(林企画部長)**

鳥取環境大学の江藤さんから頂いた質問について答弁をさせていただきます。「活性化＝豊か」というお金ではなくて、同時に心の豊かさというものも地域の活性化に求められてくるのではないかとということで、そうした点も踏まえた鳥取県の活性化のビジョンをというお尋ねだったというふうに理解しております。

昨年12月に策定を致しました鳥取県の将来ビジョンの中には、6つのキーワードを持って活力安心鳥取県を実現するための様々な取り組みというものを掲げています。この6つのキーワードですけれども、1つは「開く」ということで、高速道路の整備や環日本海航路の開設などによって、地域の中でも県外に向かってもあるいは国外に向かっても新しい交通網、交流というものが生まれるということで、新しい新時代に向かって扉を開くという意味での「開く」というキーワードでございます。それからもう1つは「つなげる」という言葉なのですが、県民や企業やNPOの皆さん、そうした様々な活動や力をつなげて結集して、そして持続可能で魅力あふれる地域を作ろうという意味での「つなげる」ということです。それから鳥取県の豊かな資源や環境の恵み、それからそういうものやあるいは危険や災害とか、そうしたものから住民生活を守る。そして次代の皆さんにつないでいくという意味での「守る」という言葉。それからあと「楽しむ」というのと「支え合う」と「育む」とあるのですが、楽しむというのは歴史や文化、自然、食、あるいはスポーツ、そうしたものを生き活きと楽しみながら充実した生活を送ると。それから「支え合う」というのは地域に暮らす1人1人の方がお互いに認め合って、尊重して、支え合うという意味での「支え合う」。それから「育む」というので、次代に向けて地域で子育ての応援だとか、あるいは教育の充実などというものに取り組んで躍進する人づくりを、人を育んでいこうという意味での「育む」という、こうした「開く」、「つなげる」、「守る」、「楽しむ」、「支え合う」、「育む」という6つのキーワードを持って活力があって安心して暮らすことができる鳥取県というものを目指そうというふうにしたものでございます。

その中で経済や産業の活性化に向けての将来ビジョンに向けてですが、将来ビジョンの中では今申し上げましたように、例えば環日本海をはじめとする大交流時代に踏み出すという意味で、北東

アジアゲートウェイ構想とか、あるいは産業の部門でいうと付加価値をつけた産業構造にして打って出る産業への転換、それから今ある食材とかそうした魅力を積極的に外に出していく食のみやこ鳥取県の推進などの取り組みを掲げているということでございます。

江藤さんからのお話がありました、また暮らしにおける豊かさという意味ですけれども、これは人それぞれに主観で感じるものがあって、多様なライフスタイルというのが存在するというふうに思いますけれども、それで様々あるわけですが、単に金銭に価値を見出すということではなくて、自然とか環境とか暮らし方だとか、そうしたものを重視される人々も多くおられるというふうにご考えております。

鳥取県には身近に海もあり山があり、そして緑ありといった豊かな自然もございますし、環境面でも優れておりますし、新鮮で魅力のある食や食文化もある。それから歴史や伝統などというものもしっかり残っている部分がありまして、大都市圏だとかそういう都会に勝る良いところや誇りを持つところがちゃんと残っていると、あるいは持っているというふうにご考えております。こうした魅力ある環境や財産というものを大切にしていくことが必要だというふうにご考えております。

また、県民性でいいますと鳥取県はボランティアの参加率が全国1位という県民性があり、人口が少なく面積が小さい鳥取県の特長ではありますが、逆にこうした人の輪とか、積極的に社会に参加しようというような気持ち、それを活かして皆で顔の見えるネットワークというようなものを築いてコミュニティー活動をやっていくと。そうしたことができる環境にあるというふうにご考えております。こうしたことを踏まえてスローライフだとか、最近ではロハスとかいう象徴されるような心の豊かさを合わせ求める暮らし、そういう生活スタイルが重視されてきております。こうしたことの中で、鳥取県の生活の豊かさというものを知って頂き、あるいは楽しみ、そして地域において自分の存在というか役割、地域への達成感だとか自分の役割感だとか存在感だとか、そうしたものに手ごたえを感じ充実感を感じられる、そうした生活。価値実感生活と呼んでおりますが、そうしたものが実現できるように県としてもそうした県づくりに取り組んでいきたいと思っております。このためには重複になりますけれども、地域で暮らす住民の皆さんも団体の皆さんも企業も、そして行政も、力を合わせて魅力ある地域を築いていくということが大事だろうというふうにご考えております。

それから、こうした豊かな鳥取県というものを県外から人を迎え入れるということにも活用し、観光だとかI・J・Uターン、今日もご質問がありましたUターンとか、I・J・Uターンのセールスポイントとしても活用しながら、こうした貴重な財産を次代へつなげる取り組みというものを進めていきたいと考えております。以上でございます。

#### **(中島議長)**

門前商工労働部長、答弁をお願いします。

#### **(門前商工労働部長)**

鳥取環境大学、江藤賢佑さんから2つ質問を頂きましたので順次、お答えさせていただきます。

まず、産業構造の転換についてでございます。鳥取県の産業構造は江藤さんに分析して頂きました通り、農林水産業、建設業がウエイトが高いということ、また製造業の中でも電気電産業のウエイトが高いといった構造になっておりまして、全体としてはバランスの取れていない脆弱な産業構造にあるというふうにも私たちが認識致しております。そこで、こうしたことを改善するべく現在、県ではその産業構造転換に向けた戦略づくりに取り組んでおります。今現在、それを検討している最中ですが、具体的にいくつか申し上げたいと思います。冒頭、平井知事からもいくつかご紹介がありましたけれども、例えばバイオ産業でありますとか機能性食品も含めた健康食品産業でありますとか、また農工商連携など鳥取県に既に技術や資源のある分野、他地域よりも優位性のある分野での取り組みを進めていくことがまず第1だというふうにご考えております。またオバマ大統領もグリーンニューディール政策というものを提唱されておりますが、先ほどもご紹介ありましたように

本県でもそれに則ったグリーンニューディールということをやっております。太陽光発電、またエコカー、先ほど山池さんからご紹介があったシムドライブなども含めたエコカーなど、将来の成長が確実な分野での取り組みについても県内の企業の皆さまと一緒に検討を加えているところでございます。更にコミュニティビジネス、またソーシャルビジネスといわれるものがございしますが、現在の社会問題を解決しながら、同時に雇用の場を提供するといったこういった分野での取り組みも、少子高齢化が進んでいる本県の中にあっては重要性が増してくるのではないかとというふうに考えているところでございます。その他にも、例えばヘルス産業であるとか介護産業、また先ほどマンガのお話がございましたけれども、コンテンツ産業など鳥取県らしく取り組める分野があるというふうに考えておまして、そういった分野での検討を進めているところでございます。こうした取り組みを通じまして、バランスの取れた産業構造を進めていくことで、足腰の強い産業構造を作っていくことが必要だというふうに考えております。

2点目でございます。鳥取自動車道の開通に伴うストロー効果対策についてということでお答えをさせて頂こうと思っております。この対策の基本は鳥取が買い物や遊びに来たくなる、まさに魅力あるまちづくりを行うと、このことに尽きるのではないかとというように考えております。そのため県でもいろいろな取り組みを行っております。例えば空き店舗を活用してチャレンジショップというものに従来から実施をさせて頂いております。現在も色を使ったリラクゼーションといった新しいタイプのお店でありますとか、また若者の集まる文庫本のカフェなどのお店が入っております。またこのチャレンジショップをご卒業された方なども中心市街地で独立をして、魅力的なお店を開いて頂いているという例もございします。また毎月第4日曜日の朝8時から鳥取駅前のサンロードで因幡のお袋市といった催しを県の青年経済界の方が中心となって開かれておりますが、地域性のあるイベントを定番化するといったこういった取り組みも町の魅力を作るためには必要になって来るのではないかとというように考えております。

また現在、ガイナレ鳥取はJリーグを目指して頑張っておりますが、週末に鳥取でJリーグの盛り上がる試合が開催をされるといったようなことなんかも、この魅力あるまちづくりには大きな意味があるのではないかとというように考えているところでございます。川端通りでは環境大学の卒業生、江藤さんの先輩にあたられると思っておりますが、中古レコードを買えるカフェバーを改良し、またまちづくりのイベントなど精力的に活動されて魅力あるまちづくりにおおいに貢献をしております。

是非、皆さん、学生の皆さん、若者の皆さん方も柔軟な発想、豊かな発想を活かして頂いて、鳥取の町を魅力ある元気な町にして頂きたいと考えております。以上です。

**(中島議長)**

続きまして、鳥取環境大学、山田航平さん、お願いします。

**(鳥取環境大学 山田航平)**

鳥取環境大学環境情報学部環境政策学科2回生の山田航平と申します。本日は県政につきまして3点質問させていただきます。

まず、鳥取県の学力調査の学校別結果開示についてお伺いします。最近の新聞記事などでもよく目にする話題ですが、鳥取県は全国に先駆け都道府県で初めて、学校別学力調査の結果まで開示しましたが、それについて様々な意見があると思われまます。これは私の意見ですが市町村、学校別に学力調査を開示しないと学力調査をしている意味がないと考えています。よって鳥取県の学力調査開示に至りましては、私は賛成です。しかしそれにつきまして、他の自治体に比べてあまりにも情報が早く出すぎているようなイメージもします。このことは他の都道府県及び教育関係者に良い影響だとお考えでしょうか。情報開示を行ったメリット、デメリット及び、今後も学校別の結果を開示するのかどうか、今後の将来像など県の意見を伺いします。

2点目は、鳥取砂丘などの観光資源についてです。鳥取砂丘をはじめ鳥取には自然中心といった

観光資源がたくさん見られます。実は私は鳥取県出身ではないのですが、やはり鳥取砂丘や大山は鳥取県外でも有名です。鳥取に初めて来た時に鳥取砂丘を訪れたのですが、観光名所の割にはどこか静かで寂しさを感じました。私個人の考えですが、自然観光を利用した観光ショップやレストランが少ないように感じます。特に砂丘前の観光をメインとしたストリートを形成すれば、リピーターが増え、更に多くの観光客を動員することが見込まれると思います。是非、県としてのご意見を伺います。

3点目は、鳥取のイメージアップについてです。鳥取県は全国的に見ても知名度がとても低いと言われていて、その点に関しまして、その影響は県全体の過疎化にも繋がっていると考えられます。若者にとって魅力ある県作りはこれからとても大切な問題だとも考えられ、イメージアップに繋がる大事な要素とも考えられます。若者がいなくなるのは鳥取県という故郷にまだ魅力がない面があるのではないのでしょうか。若者向けの企業、業者などの勧誘活動を行えば若者の雇用も確保でき、鳥取の豊かな自然とあいまって県のイメージアップに繋がると思いますが、県は鳥取県のイメージアップについてどのような考えでどのような対策をすべきだと考えておられますか。以上質問とさせていただきます。ありがとうございました。

**(中島議長)**

山田さんが行いました一般質問に対して、後藤教育次長、答弁をお願いします。

**(後藤教育次長)**

鳥取環境大学の山田さんの情報開示を行ったメリット、デメリット、及び今後の学校別の結果を開示するのかどうかというお尋ねにお答えします。

山田さんは鳥取県の出身ではないということですが、鳥取県は全国でも先進的に透明性の高い、県民に開かれた県政を推進しています。それを支えるのが鳥取県情報公開条例があるところです。この県の情報公開条例も、昨年12月に全国学力学習状況調査の結果が開示できるように、いろいろな議論を経て条例改正は行われました。山田さんお話の全国に先駆けて先月、平成21年度の全国学力学習状況調査の市町村別、学校別の結果を開示したのは、この改正した県の情報公開条例に従ったものです。山田さんお尋ねの開示によるメリットやデメリットについてもいろいろ議論をしました。メリットですが、子ども達の学力や生活の状況を地域全体で共有することによって、みんなで子ども達の学力向上や健全育成に取り組むことができる。またデメリットとしては、過度な競争や学校の序列化が生じると成長段階にある子ども達の心が傷付いたり、学校の教育が歪められるといった恐れがあります。そこでさっきもお話しましたように、昨年12月に条例改正をする際に、提供された情報を正しく使ってもらうように成長段階にある児童等の心情に配慮する。また学校の序列化や過度の競争を生じないことといった配慮規定を新たに設けたところです。今後も開示するかというお尋ねですが、開示請求があれば本県の情報公開条例に基づいて開示していきますが、大切なことは調査の結果を地域全体で共有して地域のそれぞれの実態に即した学力向上に取り組んでいくことだと思っております。以上です。

**(中島議長)**

野川文化観光局長、答弁をお願いします。

**(野川文化観光局長)**

山田さんから鳥取砂丘などの自然観光資源をもっと活用したらどうかというお尋ねを頂きました。鳥取県には代表的な自然観光資源が皆さんよくご存知だと思いますけれども、東部では先程前橋さんにもお話ししましたが世界ジオパークで、現在、一生懸命取り組んでおります鳥取砂丘でありますとか浦富海岸。また中部では、世界遺産への登録を目指しております三徳山があります。それから西部にはまた全国でも大変人気の高い大山があるなど、県内にはたくさんの自然豊かな自然観光資源があると思っております。更には県内には10ヶ所の、1つ1つ挙げませんが東部でいえば吉岡温泉とかですね、県内には10ヶ所有名な質の高い温泉もございます。山田さんが

ご指摘頂きましたように、これらのその自然観光資源を、これを十分に活用していくことは非常に鳥取県の観光振興を図る意味で大変重要なことだと思っておりますので、私どもも常にそういう活用を念頭において観光振興を努めているところでございます。

自然を活用致しましたイベントも最近多ございまして、鳥取砂丘では現在開催されております砂の美術館でありますとか、先月行われました鳥取砂丘のジュニアデュアスロン全国大会でありますとか、冬場では砂丘イリュージョンとかたくさん行われています。それから中部では8月の30日だったのですが、温泉を活用致しましたスパトライアスロン大会、三朝大会というのも行われましたし、9月20日には西部の方ですけれども皆生・大山シーツサミット2009、こういったものも行われて割と最近イベントも多くなっているところでもありますけれども、まだまだその県内外の方にまだ知られていない面も多々あると思っておりますので、ホームページでありますとか情報誌をもっともっと積極的に使いまして、広くPRしていく必要があると思っております。

それから、山田さんご指摘ありましたその観光ショップやレストランがちょっと物足りないというお話がありましたけれども、個人的にでありますけれども私もそう思っております。昔でありましたら鳥取大砂丘を見て大変感激をして、それで帰れば良かったのかもしれないけれども、時代に応じまして人それぞれの価値観も変わってきておると思っています。先程話しましたけれども山陰海岸が世界のジオパークに認定されますと、鳥取砂丘周辺には国内から、あるいは海外からたくさんの方がおいで頂くこととなりますので地元、あるいは鳥取市観光協会、あるいは旅行者の方々ですね、先程ありましたように楽しい買物ができたりおいしい食事ができるような、そういった所を早く受け皿作りといいますか、ストリート形成という話もありましたけれども体制づくりを早急に関係者で話し合ったいと考えております。以上です。

**(中島議長)**

林企画部長、答弁をお願いします。

**(林企画部長)**

環境大学の山田さんのご質問に対して、答弁を申し上げます。若者向けの企業や業者など誘致活動を行えば若者の雇用が確保できて、鳥取県の豊かな自然と相まってイメージアップ、県のイメージアップにつながるのではないかと思いますけどどうだというご質問だと思っております。

若い人が地域に魅力を感じて暮らして定住していくというためには、魅力ある雇用の場が必要だという、それはもうおっしゃる通りだろうと思っております。先程、知事からも商工労働部長からもありましたけれども、県内には魅力ある企業がたくさんあります。そうした企業を皆さんに知って頂くような取り組みだとか、あるいは企業誘致、それから新しい産業技術の開発、農商工連携による新商品の開発など、そうした産業の活性化に取り組んでいるということでございます。また鳥取自動車道だとか山陰道などの高速道路の整備が進んでおりますし、DBSクルーズという船による環日本海航路など広域での交通体系が整ってきたということから、こうした利便性を活かした企業立地の促進や、それから東アジア、特に北東アジアとのゲートウェイとしての、物流拠点としての発展も目指しているということでございます。こうした取り組みで産業面や雇用面での魅力が増していくということで、イメージの向上にもつながるものだというふうに期待をしているところでございます。

また、イメージアップという面でございますと、産業という面だけでなく、地域の魅力の中には生活環境の良さだとか観光地、観光等でよその県の人が訪れてみたいといったような魅力といった面もあると思っております。素晴らしい自然や魅力ある物産、それから人の和があって落ち着いた生活環境。子育てがしやすい環境。優れた伝統文化など本県が持つ様々な魅力を大切にして、皆でこれを共有するということが同時に外に向かっても情報発信をしていくということが必要だと思っております。

これまでこうした情報が外に十分に伝わっていなかった面があると思っております。そうした意

味で、今の鳥取県の知名度というのは決して高くないというふうに認識をしております。このため先程も申し上げましたけれども、食のみやことして東京のアンテナショップ等で情報発信をすとか、あるいは移住の取り組みの中で鳥取来楽暮（コラボ）、これは鳥取に来て地域の人達とコラボレーションをしながら一緒に楽しく暮らそうという意味での鳥取来楽暮と名付けているものがございますけれども、こうした取り組みで鳥取県の暮らしの豊かさというものをアピールしているところがございます。それから情報発信というのは行政だけでは十分な効果が難しいと思っています。民間の方やあるいは若い皆さんの創造力、行動力というものにもおおいに期待をしているということがございます。例えば我々若手職員が島根県と一緒にの方と考案したような、鳥取県は島根県の右側ですとかね、こういうようなアピールの仕方とかですね、あるいは鳥取来楽暮の中では今、漫画を使って、ネットでも県のホームページの中に公開をしています、そうした漫画を使って移住のやり方だとか鳥取県の暮らしの良さというようなものをアピールしたりということをしておりますけれども、そうした取り組み、若い発想力だとかそうしたものにもおおいに期待をしているということでございます。おっしゃるように産業や雇用の面、それから生活環境や観光資源や物産など、鳥取県の魅力を総合的に高めてこれらを皆で共有をして発信をしていくと、外にも発信していくということで積極的なイメージアップを図っていきたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

**(中島議長)**

続きまして鳥取大学、島田泰菜さん、お願いします。

**(鳥取大学 島田泰菜)**

鳥取大学地域学部4回生の島田泰菜と申します。宜しくお願い致します。

私は県内での就労支援について質問をさせて頂きたいと思っております。現在、鳥取には県内で就職をしたくても求人が少ないために難しいという状況があります。特に昨年からの不況で、ただでさえ少ない求人がさらに減少しているように思います。県内の有効求人倍率は全国平均をやや上回ってはいるものの0.46倍。正社員の有効求人倍率に至っては0.21倍と1倍を大きく下回る状況となっています。また先日は高校の求人数が前年同月と比較して40%減、10人の内6人は県内で就職ができないという衝撃的なニュースを目に致しました。

私も今まで県内での就職を目指し活動を続けてきましたが、その厳しさを体感しております。また知人の中には県内就職を希望していましたが、やむを得ず県外での就職を決めた方もいます。このままでは県外への人口流出はますます加速するばかりです。鳥取県では鳥取県の将来ビジョンを作成され、その中で中小企業のサポートや企業立地の促進、次世代産業分野の集積、有効求人倍率を1倍以上にするといった取り組みの方向性を掲げていらっしゃると思いますが、具体的には今までにどのような事業を行われそしてどのような成果を出されてきたのでしょうか。

また、現在も不況の影響で求人が減少しています。この現状を打開するため、これから新たに取り組みを検討されている政策等がありましたらお教え頂きたいと思っております。ご回答の程、宜しくお願い致します。

**(中島議長)**

島田さんが行いました一般質問に対して、門前商工労働部長、答弁をお願いします。

**(門前商工労働部長)**

鳥取大学、島田泰菜さんから頂きました県内就業を支援取り組みについての質問について、お答えさせて頂こうと思っております。

現在のように大変厳しい経済・雇用の状況化においては、当面の経済を下支えするという対策と、産業構造を転換していくという中長期的な対策、いわゆる守りと攻めのふたつの観点から対策を講じることが必要だと考えておまして、そういった観点で今いろいろ対策を講じさせて頂いています。まず県では昨年来、不況、景気が悪化してきたことを踏まえまして、短期的な守りの対策とし

て県議会にもいろいろご相談をさせて頂きながら対策を講じさせて頂いております。

例えば、企業や自治体で一時的でも雇用を創出するような、そういった事業に対策して支援をさせて頂くでありますとか、また休職者の方に対する職業訓練を充実させて頂く。またそういった方が雇用保険を持っておられない場合は生活費相当の額をご支援させて頂くというようなことで、職業訓練に集中的に取り組んで頂くというようなことも取り組ませて頂いております。また企業が倒産をしないような資金繰りの対策、こういったものをやらせて頂いておりますし、また就職相談を実施するという観点で取り組ませて頂くなど企業を支える面、また職を求めておられる方を支える面、そういった面から対策を講じさせて頂いたところでございます。

県民の皆様が本当にお困りの現状をお伺い致しておりますので、我々としてはできるだけのことは何でもするといったような考え方、姿勢で県議会にも相談させて頂きながら施策を講じてきたところでございます。

他方、県民の皆様が将来に亘って安心して暮らして頂くためには、県内での魅力的な職場を創出するということが同時に進めることが必要だというふうに考えております。企業誘致を進めることはもちろんでございますけれど、先程お話をさせて頂きましたバイオでありますとかエコカーでありますとか太陽光等、新しい産業分野にチャレンジをするというふうな取り組みも必要であるというふうに考えております。

また環日本海航路でありますとか鳥取自動車道、そういった産業を支える交通基盤を進めること、こういったことも必要であると考えておりますし、また未来を担う子どもたちへの教育予算を充実するといった将来への投資をするというふうな観点での取り組みも合わせて必要であると考えているところでございます。

ただ、しかしながら残念なことでございますけれど、地域間格差というのはやはり拡大を致しておりますし、本県のような小さな県だけで取り組むことには限界があるのも事実でございます。

1国2制度、聞かれたことがあるかもしれませんが、大阪の橋下知事も提唱されておりますけど、産業競争力の弱い所に特例的な制度を設けるといった特区のようなそういった制度についても国に求めていくことが必要ではないかと考えているところでございます。ただ、県内産業が力をつけていく最後の決め手はやはり優秀な人材がどれだけ確保されるかということにかかってくるというふうに考えております。

是非皆さんも県内で就職をして頂いて、今後の鳥取県の経済を支えて頂きますように是非、お願いを申し上げたいと思います。以上です。

#### **(中島議長)**

続きまして鳥取大学、小谷草志さん、お願いします。

#### **(鳥取大学 小谷草志)**

皆さん、こんにちは。最後の質問者となりました鳥取大学の小谷草志と申します。今回は3点ほど質問させて頂きます。少しの間ですけれども宜しくお願いします。

まず1つ目としては、鳥取県の目指す将来ビジョンにおける疑問についてです。鳥取県の将来ビジョンという冊子の中に、将来ビジョン策定の視点という部分がありました。その中で、我が鳥取県は高速道路の整備や県外・海外企業の誘致等による経済活性化に加え、大都市圏にはない豊かな歴史、自然、環境等を上げ、「スローライフ」や「ロハス」といったような地域性の発揮を挙げています。確かに鳥取県の現在の就職率や人口の流出を防ぐ意味でも経済的な余裕が必要なことは明白です。そして鳥取県は皆さんもご存じのように砂丘や大山等、自然に恵まれた観光地があり、更に農村の原風景など豊かな資源があると考えています。しかし、このふたつのことを同時に進めようとする、経済活性化による原風景や自然の破壊などが懸念されます。

経済活性化と地域性の発揮というこのふたつの矛盾ともいえる兼ね合いというものを県政ではどう考えられているのか、具体的な対策を教えてください。

そして2点目は、県外・海外企業誘致についてです。鳥取県は近畿圏や北東アジアに近く、更に新しく姫鳥線など高速道路の整備により少しずつですが県外や海外との交流が盛んになってきています。そして、これからも「北東アジアゲートウェイ構想」など、「大交流新時代」と題し、県外・海外との交流を促進していくというふうに取り組みが行われています。

確かに現状としては、鳥取県は高速道路や汽車、空港などの交通機関は十分発達しているとはいまだ言えません。しかしそれは別の側面からみると、県外や海外などの大手企業から県内の中小企業を守る見えない壁となっていました。大交流新時代へと転換すると、確かに経済は発展し活性化し、雇用の確保や活気のあるまちづくりになるかもしれません。しかし、それによって県内の中小企業は県外や海外の大手競合他社を相手にしていかななくてはいけないという脅威を生みます。その結果としてたくさんの県内中小企業が倒産に追い込まれてしまっただけでは意味がないのではないのでしょうか。これに対して何か良い対策があれば教えて頂きたいと思います。

そして3点目は、人材育成に関する提案です。鳥取県ではたくましい人材を育成するというふうに掲げています。私は現在、鳥取大学に通いながらサークル活動やボランティアなどをやっています。その中で鳥取県というのはメディアに取り上げられやすく、自分たちの行った活動が認められているというふうな印象を受け、とてもいい環境だと思います。しかし、関西のほうと比べると行政や企業が提供しているような場、例えばインターンシップであったりプロジェクトに学生を交えて商品開発や政策を考える等のチャンスが不足していると考えています。何か活動をしたと考えたときに、それを支援したり場を提供する制度などが少ないのではないのでしょうか。

これは個人的な考え方ですが、学校の勉強だけでは主体的に物事を進めたりすることはなかなか学べないと思います。だからこそ、鳥取県ではたくましい人材を育成するにあたって、そのような主体的な行動の機会や場を提供し、これから先につなげていく必要があるのではないのでしょうか。そこで今回、提案したいと考えているのは、行政の政策策定や商品開発、農村活性化のための案出しなど、それらのプロジェクトの提案から実施までを学生に体感させるような学生だけのプロジェクトを立てることです。そうすることで問題提起能力や問題解決能力、論理的思考力など多くのことを学生は身につけることができ、更に自分たちの地域を知ること、今以上にもっと知ることができると考えられます。是非検討してみてください。

以上3点が私の質問になります。宜しくお願いします。

#### **(中島議長)**

小谷さんが行いました一般質問に対して、林企画部長、答弁をお願いします。

#### **(林企画部長)**

鳥取大学の小谷さんの質問にお答えを致します。

まず1つ目でございますけれども、将来ビジョンの中で地域活性化に加えて自然や環境などを大切にするスローライフだとかロハスだとか、そういった面も掲げているということで、地域の活性化とそうした原風景というか、地域の自然とかそうしたものを大切にした地域性の発揮という2つの面は矛盾しているのではないかと、そうした矛盾ともいえる2つの点の兼ね合いをどう考えているのかというお尋ねだと思っております。その点につきましてでございますが、地域の活発化と地域性を発揮活性化というものと、地域性というか地域の伝統だとか環境だとかというものを守っていくと、それらを大切にしていくというこの2つの取り組みは、どちらも鳥取県の発展、それから将来ビジョンを目指します「活力安心鳥取県」というその実現に向けて、活力あり、そして暮らしもしっかり守っていくという実現に向けての重要な取り組みであって、両立をさせて進めていくということが必要だと考えております。高速道路網の整備や企業誘致を進めるということは、地域産業の活性化をさせて雇用の確保や創出、それから若い人たちの定住だとか人口減少を食い止めるということが効果があることから、重要な課題だというふうに考えております。一方で、鳥取県が持っております自然だとか環境、歴史、それから食文化だとか伝統文化だとか、あるいは町並みとい

うようなものもあろうかと思えますけれども、そうした良さというものを貴重な財産として次代につなげていくということ、これもおっしゃるように重要なテーマだと思っております。

ただ、こうしたものの開発で失われるのではないかということだろうと思えますが、一旦こうした重要な財産が開発等で失われると、なかなか元に戻すことは難しいということはあるかと思えますが、近年ではこうした開発の際には景観法だとかあるいは環境影響評価法だとか、そうした法体系も整ってきておまして、あらかじめ様々な環境に配慮した対応ということが求められているということがございます。また鳥取県では特に建設事業の場合には環境設計指針というものを策定しておまして、これに基づいて環境に配慮した施工を行うということにしており、それから非常に目につく橋梁の設計を発注する場合にも周辺の景観や環境に配慮した設計にするようにというようにしておまして、景観とかそうした地域への環境への影響というものに十分配慮した、そうした取り組みを進めているところでございます。

また一方で貴重な本県の自然や景観、それから環境というものを守って次代に継承するという取り組みも県内でいろいろ進んできております。例えば、中海のラムサール条約への登録というのがあって、中海や宍道湖の一斉清掃に多くの方が参加をして頂いているとか、あるいは湖山池の水質浄化に100人委員会というのがあったり、あるいは東郷湖の水質浄化を進める会というような住民団体がそうした景観だとか環境というものを守ろうという取り組みもあります。それから条例として日本一の砂丘、鳥取砂丘を守り育てる条例というものを県でも作っておまして、県民運動だとかボランティアによる除草のアダプトとか、そうしたプログラムもできてきているというようなこともあります。

また先ほど文化観光局長のほうからも話がありましたけれども、現在、世界ジオパークネットワークに加盟を取り込んでおります山陰海岸のジオパーク、あるいは中山間地域の棚田、それから農業体験を通じたグリーンツーリズムの推進とか、そうしたものを通して優れた環境や財産を観光や地域おこしに活かしていくということでの産業の活性化とか地域の活性化ということも進めていきたい。このような取り組みを進めていくことで経済振興を図りながら鳥取県の持つ豊かな自然や景観、環境を守り、それらを両立させて地域の活性化に取り組んでいきたいというふうに考えているところでございます。

それから順番がちょっと前後しますが、私のところの関係なので3番目の質問にもお答えさせていただきます。鳥取県では自己実現というか、なにか学生の皆さんが活動をするときにそれを支援したり場を提供する制度が少ないということがございまして、行政の施策策定や商品開発、あるいは農村の活発化のための案、それから提案から実施までを学生のプロジェクトとして立てることを提案頂きました。これについての答弁でございます。

本県でたくましい人材の育成ということは非常に大事なことだと思っております。そのために主体的な行動の機会や場が必要だということ、これについても同感でございます。人材の育成というのはこれからの鳥取県の最重要課題だろうと思っております。昨年末に策定を致しました鳥取県の将来ビジョンの中にも人材の養成、「人材」というのは、人と、それから財産の財と書いておりますけれども、人材の養成を柱としておまして地域で人材を育成する、地域の力を強化するということと、本県の特徴を活かして多様でたくましい人材を育成することというようなことで、「人材鳥取」というものの推進を掲げているところでございます。実際、県内でも多くの学生の方がボランティア等に参加をして頂いております。小谷さんも参加をして頂いているということでございますけれども、少しご紹介を申し上げますと、例えば大学生の方が警察と協力をしてボランティアのサポーターとして青少年の健全育成活動に取り組まれている例とか、あるいは鳥取大学が中心となって日野郡において過疎問題を抱えている地域で、自治体が持続的に地域を形成するための形成研究プロジェクトというものを集中的にやっておられるとか、それから棚田の保全や水質の維持とか、そうしたことについて学生人材バンクのほうで学生を中心としたボランティア活動があったり、そ

れから援農ボランティアということで、環境大学の学生サークルが梨の袋掛けとかそういうものを作って、それから学生の産直市と、直売ですね、そういうものも実施をされているというようなこともございます。それからまた、県庁の中で施策を立案するプロジェクトとして若手職員のサブチームというものを作っておまして、その取り組みの中で昨年度の取り組みでは、鳥取大学の辻さんという学生の方にそのサブチームに加わって頂きました。そして県職員と一緒に新たな事業、これは若者の地域活動マネジメントということで若い人たちが地域の活動に積極的に出てもらう、そういう仕組みを作ろうという取り組みでございますけれども、そうしたものに加わって頂いて一緒に検討し予算化したというような例もございます。また県では県民の方々がこうした主体的に地域活動を行われる、そうした活動の後押しをしたいということで、それを地域づくりにつなげていきたいということで、県民の方からの提案とかアイデアというものを支援する協働提案サポートデスクというのを設けております。提案や相談を受けてそれを施策の具体化に結び付けていくということを支援しているところでございます。

今、小谷さんがおっしゃいました地域づくりを進める上で、あるいは若い人の人材を育てる上で若い人達の考え方や感覚、視点を大切にして取り組むというのは大事なことだと思っております。今、ご提案がありました取り組みにつきまして、提案のアイデアそのものについて具体的に、出来ましたら協働提案サポートデスクのほうでお聞きをして、そしてどういった具体的な取り組みに結び付けられるのか検討してみたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

**(中島議長)**

門前商工労働部長、答弁をお願いします。

**(門前商工労働部長)**

鳥取大学の小谷草志さんから頂きました大交流新時代における対応についての質問に答えさせていただきます。現在、改めて申し上げるまでもございませんけれども経済社会、急速にグローバル化が進んでおります。既に県内の企業も国内外の多くの企業の競争にさらされているというのが現実であります。また今後を見ても、情報手段がこれだけ急速に進化をしている中にあるのは、今後もますますグローバル化、また大交流、世界との交流が進んでいくと考えていかなければいけないというように考えております。こうした中にあるのは、県の中に閉じこもっているのではなくて、むしろ積極的に県外なり国外に打って出るということのほうがより大切なのではないかとこのように考えます。そういった意味で、鳥取自動車道など高速道路が整備されること、また韓国やロシア等を結ぶ定期貨客船が開設されたこと、また米子空港が充実をされるなど、交通の基盤整備が進んでいるということは県内企業にとりまして千載一遇のチャンスと捉えるべきではないかとこのように考えております。確かにご指摘のようにストロー現象も含めて県内の中小企業にとってマイナスの影響があることは事実であろうと考えておりますが、先程、江藤さんの時に申し上げましたような対策も講じながら、企業誘致も含めて県内経済の活性化につなげていく取組みをすることのほうが必要ではないかとこのように考えております。

近くなった関西に鳥取県の農作物を売り込むでありますとか、また中国、ロシア、ここは人口が多くて非常に大きく発展をしておりますので、ここに鳥取県の工業製品を売り込むでありますとか、また近くなった北東アジアから大勢の観光客に来て頂く。こういったことも含めてこの交通インフラを活用して大交流時代を乗りきっていく必要があるのではないかとこのように考えております。

日本の中、世界の中で小さな存在感をしっかりと示せる、そういった鳥取県経済を目指していく必要があるというように考えておまして、そういった方向で取組みを進めていきたいと考えておりますので、学生の皆さん方にも是非その一翼を担って頂きますように心からご期待申し上げたいと思います。以上です。

**(中島議長)**

以上で、本日の日程はすべて終了しました。これで平成21年度学生議会を閉会します。ありがとうございました。

**(衣笠県議会事務局長)**

ありがとうございました。議長役の中島さん、大変お疲れさまでございました。それでは自席のほうへお戻りください。

それでは最後に、斉木正一鳥取県議会副議長の方から、閉会のご挨拶を申し上げます。

**(斉木県議会副議長)**

学生議会を閉じるにあたりまして、ひと言ご挨拶を申し上げたいと思います。本日は大変皆さん方、予定をしておりました時間を大幅にオーバーする大変熱心な論議をして頂きました。心より感謝を申し上げます。また知事をはじめ執行部の部長、あるいは局長に対して鋭い質問をされまして、鳥取県議会議員顔負けのすばらしい論戦でございました。この内容は皆さん方、やっぱり日頃、学生として、活動されている中でそれぞれ疑問に感じられ、あるいは聞いてみたいということが内容にちりばめられていました。特に皆さん方はやはり一番身近で生活している中の疑問点も質問されましたし、そしてさし迫った問題の就職とかあるいは雇用の問題、そして最後に鳥取県の活性化の問題等本当に多岐に亘ってご質問をして頂きました。大変皆さん方、この質問にあたって勉強され、ご苦労されたことと思います。本当にすばらしい質問でございました。是非、こうした質問を通して行政に対して提言をしていく。そしてまたそれが行政が答えて、それでより良い、また更に鳥取県になっていくことの繰り返しだろうと思います。

是非、今日のこの経験されましたことで県政を身近に感じ、あるいは鳥取県を身近に感じられたんではなかろうかと思しますので、今後とも今の気持ちを持ち続けて、鳥取県のためにご提言を頂くようお願いを申し上げたいと思います。

また、終わりにになりましたけど、執行部の皆さん方には学生議員の皆さん方の本当に真摯な質問に対して、心からいい具合にご答弁して頂きまして本当にありがとうございます。心より感謝を申し上げます。以上を持ちまして学生議会を閉じたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

**(衣笠県議会事務局長)**

それでは本日、参加頂きました学生の方に小谷県議会議長の方から記念品を差し上げますので、代表と致しまして議長役の中島さん、前の方にお問い合わせ致します。

以上をもちまして、本日の学生議会をすべて終了させていただきます。本日はありがとうございました。